



## 横浜開港 150 周年の横浜で

同窓会会長 大嶋 裕

第35号

発行  
横浜商科大学  
同窓会  
Tel. 045-583-9031  
<http://www.shodai-ob.com/index.html>  
印刷  
（株）サン・プリンティング  
Tel. 03-3750-6633

横浜商科大学同窓会会員並びに、ご家族の皆さまにはますますご清祥のこととお喜びを申し上げます。

また、日頃のご活躍を通じて同窓会と母校の発展にご尽力を賜り、深く感謝申し上げます。

横浜商科大学同窓会は今年、会員数18000余名の組織となり、発足より34年、これまで多様な活動を展開してまいりました。

その中で、長年にわたり検討を重ねてまいりました念願のホームカミングデーを本年開催することとなりました。

松本理事長・久保学長はじめ小林学部長を中心に教職員の方々のご尽力に感謝申し上げます。

初めての試みで今から期待に胸をおどらせている次第です。

第1回ホームカミングデーを成功させる為に同窓会として、その底力を大いに発揮させようではありませんか！

※ホームカミングデー

日程…10月31日（土）

場所…鶴見キャンパス

※同窓会総会・懇親会

日程…11月21日（土）

場所…新横浜国際ホテル

多くの会員の皆さまにお会い出来るのを楽しみにして居ります。

今、横浜は開港150周年記念の年で、Y150をスローガンに賑わっています。

その一方で100年に一度という経済不況と先の見えない低成長時代に突入している現状です。

一時の華やかさにおどらされることなく、同窓会と母校の発展の為に努力を続ける所存です。

どうぞ皆様の更なるご支援とご協力をお願い申し上げます。





# 第39回 卒業式



H21年3月26日パシフィコ横浜国際会議センターにて第39回卒業式が厳粛なうちに挙行され460名の若い力が巣立って行きました。

卒業記念パーティーが華やかに行われた会場



## 新会員紹介

### 社会人から 大学生生活を終えて 貿易観光学科卒 手塚 徳明

社会人から再度の大学入学には不安もあり、躊躇したのも事実ですが、四年間で得たものは他に代えがたい貴重な体験でした。

学問はもとより、若い学生との交流は、「年齢に関係なく周囲から教えていただくことの重要性」を改めて認識しました。

現在は東京工科大学大学院、バイオ・情報メディア研究科、アントレプレナー専攻で観光ポスピタリティに関するマーケティングを探究しており、学部時代に引き続き、顧客満足度最大化のために邁進しております。同期中では唯一の文科系大学出身者ですが、周囲の院生と遜色のないように、日々時間に追われております。

本学への入学以前は観光接客業に従事し、最高の顧客満

足のための接遇と、内部社員

や航空会社、ホテル等の外部接客業界に接遇指導をしてまいりました。しかし、現場での実務を経験するにしたがつて、学問と実践の両面を兼ね備えてこそ、真の仕事が可能と判断し、観光業を学問から探究する必要性を感じていました。そこで、15年間勤務したのを契機に、一旦現場を離れて学問の道に再度飛び込みました。過去に四年制大学で学んだ経営学を活かし、観光学との融合で更なる学問の相乗効果を得ることも目的でした。

私が接客業を職業に選択したのは、素晴らしい接客との出会いからでした。幼少時代から旅行、観光に興味を持ち、高校時代はアルバイト収入でホテルを利用するような生徒で、老舗ホテルに食事や宿泊で足繁く通っていました。高校生の私に対しても素晴らしい姿勢で接客して下さいました。これが私に「接客

を生涯の仕事にしよう、お客様の喜びを自己の喜びにしよう」と決心した一番の要因だと思っています。

「良い接客をする為には、身銭を切っても良い接客に触れる」、この言葉は高校、大学時代から座右の銘として今日まで実践してきました。

直近の職業は一九八九年から二〇〇三年まで勤務した日本の大手旅行会社の海外支店です。そこで経験した実際の接客業は、かなりの知識、経験が必要で毎日が勉強の連続でした。通常の現地係員業務である観光ガイドや緊急対応はもちろんですが、お客様が大学教授、医師、会計士、弁護士、上場企業役員、大臣等の場合、各専門知識を吸収し自己のものに昇華できるまでの努力を要しました。

その中でも一番貴重な体験では「お客様から学ぶことの多さ」であり、接客を通じてのお客様との心からの交流が人生の宝となっています。

この、実務、実践と、横浜商科大学で学び、探究した学問の相乗効果で、今後も「生

涯一職人」として接客に邁進する所存です。

本学は規模の面から考慮すると、人との交流では最高の環境です。本学が「教育機関というサービス業において最高の接客業の見本」であるよう、同業者として切磋琢磨していきたいと存じます。

観光を学問として基礎から探究できたことで、本学で出会い、ご指導を受けた先生、職員の皆様に心より感謝を申し上げますとともに、母校の益々のご発展をお祈り申し上げます。

私はお客様に喜んで頂く職業に出会えたことを無上の喜びと感じ、お客様とともに成長してゆく所存です。

### 現在の自分について

経営情報学科卒 中澤 智

私はH21年3月大学卒業後、地元新潟県南魚沼市の高千代酒造株式会社に入社しました。南魚沼といえば、お米と日本酒が有名です。また大

河ドラマ「天地人」の舞台の地ということもあり、田舎ながらかなりの賑わいを見せています。自分もお酒が好きということと、生まれ育った地元での生活をした、働きたいという強い気持ちから就職を決めました。就職先の高千代酒造では、大河ドラマ「天地人」のお酒「兼続」「天地人」等の銘柄を製造しています。ドラマのヒットもあり、毎日仕事に追われる日々を送ることが出ています。

日本酒は機械管理で製造することが電子機器の発達により、現代社会で可能となりました。しかし自社では、日本酒を造る職人さん「杜氏（とうじ）」の長年の勘と知識による、昔ながらの手作りの製造を行い、質の良い酒造りを目指しています。私も入社して一ヶ月間酒造りの現場研修を行いました。営業としての採用でしたが、日本酒を製造する現場を体験したことで、会社や杜氏の日本酒一本々にかける熱意や、日本酒の奥深さに触れたことで、この業界の面白さに刺激をうけまし

た。今は普段飲むお酒がビールなどから日本酒になるほどになっていきます。

現在は酒屋さんなどの営業を中心に行っています。大学で学んだ分野とは異なる業界ですが、大学生活やゼミ活動で感じ取った人と人とのつながりの大切さが現在の業務に生きてきていると感じます。酒以外の話題で会話をすることが出来ていることも大学で学んだ一つの力だと思っています。

これからいくつも辛いことや、苦勞することがあると思います。それでも大学での思い出や、共に頑張っている仲間のことを思い、私自身も現在の初心を忘れずに成長し続けていきたいです。「お酒は楽しく飲むもの」という考えがあります。私も楽しく仕事をし、酒屋さんを通してその先の消費者まで、酒蔵の思いを届けられるような営業マンになりたいです。そして何年後、何十年後に成長した自分を大学の仲間に見せることが出来ればいいなと思っています。

### 支部だより

各地で開催されている  
支部総会・活動

4月11日 広島支部8名参加  
宮原義友名誉教授、大嶋裕、齋藤健市、宇都宮義彦(四国)、小畑正治、風呂実雄、寺西佑治、大久保一馬

4月17日 ハンドボール支部9名参加 藤田和夫、藤田和男、山崎成、稲見東位、石川庸雄、滝上徹、佐藤好男、田中行雄、浅野晋一(他) 藤田和夫さんの家族2名)

5月9日 飯山会支部24名参加  
松本理事長、宮原名誉教授、榎田悠一、植木茂雄、大嶋裕、小林進、小林正明、関本邦明、平井俊昭、村田剛、山本隆司、石渡志津子、岡本恭一、笠原幼子、近藤春樹、杉原一光、田口光春、中山紀子、林保夫、平野秀雄、望月こず枝、和田彰、渡辺保、松岸正泰



5月15日 教員支部20名参加  
茂木幹男、渡辺雅人、和内広行、福原博、静谷信雄、林嘉憲、本間巧、和田広志、澤みゆき、成田明弘、藤井和之、篠原孝太郎、堀越正美、新田宮子、小林孝光、安藤希望、柴崎琢磨、三島恭司、遠藤奈津美、木所満

5月23日 四国支部8名参加  
宮原義友名誉教授、西海雅弘、風呂実雄(広島)、宇都宮吉彦、小森雅史、土居一彦、田村喜彦、商工会議所青年部より齋藤会長

6月2日 大学不動産連盟  
総会へ出席 松本理事長、久保学長 他25名参加



6月21日 静岡支部17名参加  
久保清治学長、大嶋裕、山崎好美、杉原一光、滝上徹(群馬)、望月こず枝、渡辺有文、山崎成、村上道朗、大井力、大町敏康、深沢伊智郎、菅野昭吾、渥美重陽、小泉直浩、真壁健、鈴木春奈(望月こず枝さんの家族5名)

6月21日、「静岡グラウンドホテル中島屋」にて静岡支部総会が開催された。大学より久保学長・本部より大嶋会長、

支部間交流で他支部の会員の参加を頂き、和気あいあいでした。



山崎支部長の挨拶のあと菅野副支部長の司会で議事に入る。会務報告では事業報告・決算報告・来年度の活動計画等がなされ、この中で支部と会員の距離を近づけるために機関紙の発行・HPの利用等積極的に取り組んでゆきますという報告があり、何れも了承されました。続いて、久保学長による講演があり「大学の現状と今後について」という

テーマで話をされ、出席会員それぞれが学生時代に戻ったかのように一生懸命メモを取っていました。

講演終了後、参加者全員で恒例の記念撮影があり、その後部屋を移動し懇親会に入った。今年は節目の総会ということで熱海在住の歌手・高瀬一郎さんの歌謡ショーがあり、年代を超えて集った会員と学生時代の思い出話に花が咲き楽しい一時を過ごせたことは大変有意義であった。最後に菅野副支部長の音頭で手締をし散会となった。

6月27日 宮城支部9名参加  
宮原義友名誉教授、斎藤健一、杉原一光・稲垣正直・坂本直生(観光産業支部)、小松智、関口文男、熊谷仁、福士明嘉  
7月4日 群馬支部12名参加  
平田博士教授・佐藤義文教授、篠原孝太郎、鈴木清照、松山宏一、立木明、閑野勇、茂木幹男、川島英治、堀越敏明、目黒正栄(新潟支部)、杉原一光(観光産業支部)、



支部総会開催予定

8月2日 観光産業支部  
町田「ホテル・ラポール千寿閣」  
9月12日 経営情報システム支部  
鶴見西口「ルージン」  
9月19日 新潟支部  
南魚沼町六日町「ホテル魚とし」  
9月26日 会計人会支部  
新横浜国際ホテル  
10月22日 不動産支部  
横浜東口「クルーズ・クルーズ」  
※詳細は同窓会事務局までお問い合わせします。  
☎045-583-9031  
(月・火・木・金在勤)

大学だより

脳卒中で倒れて

横浜商科大学

教授 村上 一郎

今年の卒業式の後、記念パーティの席で同窓会会長の大嶋さんと女性役員の方から「先生、会報に載せますので病気の事書いて下さい。」と話があり、一寸と考えましたが、同窓会のOB・OGの中にも還暦前後の方々が大勢おられると思い書く事にしました。

脳卒中とは、脳の血管が詰まって血液が流れなくなる(脳梗塞) 脳の細い血管が破れて出血(脳出血・脳溢血)

脳の太い血管の一部がふくらんだコブ、つまり脳の表面に出血が広がる(くも膜下出血) など脳の組織が障害されることを総称して脳卒中といえます。

私の場合は、右脳視床下部というところが出血しました。症状は、左側片半身機能障害で左半身肩から手の指先と左足が痺れ・麻痺・痛みで

普通に動かすことと歩行ができません。現在は、右手に杖を持って歩いています。幸い右手・右足は正常なので助かっていますが、階段の上り下り、洗面・着替え・トイレ等苦労しています。健康な時は気がつかなかったことで日常生活は不便な事が多くあります。ちなみに左脳障害の場合は、右手・右足・言語障害・味覚障害・記憶喪失の症状が現われます。

原因は、暴飲暴食で野菜を食わず肉類が多く余分三兄弟(脂肪・糖分・塩分)をたっぷり、さらにアルコール・タバコを夜遅くまでやっていた。恥ずかしい限りです。

入院したのは、平成19年6月1日朝、家で学校に行く準備をしている時、手・足が痺れて頭に激痛をともし倒れました、すぐ家族の者が救急車を呼んでくれて入院しました。事前の兆候には気がつきませんでした。医者からは糖尿病・血圧・ストレスが原因と言われました。入院中は、車イスの生活で医師と看護師から許可しないのに勝手に歩

いたり、動くなど叱られてばかりでした。夏休みを挟んで四ヶ月で退院することができました。

最後に皆さんに一言、糖尿病・高血圧など普段から痛み症状が表れませんかから気をつけてください、特に糖尿病は合併症(失明・足切断・心臓関係)が怖いですが、自己判断しないように。健康診断は必ず受け医師の指示は素直に聞く事、保険(生活習慣病対象)に入るといざという時、心強いです。今は車を使用せず徒歩、バス、電車を利用し他に電気針を手と足に打ちりハビリに努めています。食事は最初に野菜を多く食べてから、アルコールはお祝いのみ少々、禁煙してます、皆さん他人事と思わないでください。



ドイツ留学報告書

ケンプテン専門単科大学

Fachhochschulkeмпten

貿易・観光学科4年

菊地由美子

私は2008年8月から半年間、ドイツのバイエルン州に位置するケンプテン専門単科大学に留学しました。以前からドイツ語やドイツ文化に興味があり、いつかドイツで学びたいと思いつけていました。そして今回、念願のドイツ留学が実現しました。自身の語学能力に不安はありましたが、初めての海外経験が念願のドイツ留学になったことがとても嬉しく、渡独が待ち遠しく感じるほどでした。

8月の1ヶ月間はコンスタンツ大学でのサマーコースで学びました。ドイツの夏は日本と異なり、日差しは強いものの湿度が低いので過ごしやすく、たくさん緑に囲まれ気持ちのよいものです。特に私が滞在した地域はボーデン湖というドイツ最大級の湖があり、リゾート地として毎年多くの人々が訪れます。参加者は世界各地から国籍や

年齢、職業も異なるおよそ170名が集まりました。授業はひとクラス10名ほどで、午前中はクラスごとに文法、読解、プレゼンなどを通じてドイツ語や文化について学びました。午後からはスポーツや市内散策など魅力的なプログラムを貸しきり国境を越え、オーストリアやリヒテンシュタインへ遠足に出かけたのは、陸続きの欧州ならではの経験でした。これらの充実したプログラムのおかげで、ドイツ以外の欧州、中東、南米、アジア、アメリカなど留学以前には想像もしていな



ボーデン湖・ライヒェナウ島 聖ゲオルゲ教会

かったほど多くの国の人々と知り合うことができました。彼らと一日を共に過ごすことで、ドイツだけではなく諸外国の文化を知る機会も多く、とても刺激的であつたという間に毎日が過ぎて行きました。1ヶ月のコンスタンツでの生活を終え、南ドイツのアルゴイ地方の中心地ケンプテンへ移りました。ケンプテンは人口6万人の小さな街ですが、周囲はアルプスの山々に囲まれとても環境に恵まれています。ケンプテンの街の人々はとても温かく、住民登録や銀行口座の開設など、まだ生活に慣れない私をたくさん助けてくれました。ケンプテン専門単科大学では観光学科に籍を置き、朝起きてから夜寝るまで生活を通じてドイツ語を五感で吸収し、とても濃い時間を過ごしましたが、はじめのうちは間違ったドイツ語を話すことが恥ずかしいと思ひ、自ら積極的に話すことを避けていました。しかし多くの留学生から刺激を受け、ドイツ語を上達させるためにそういった失敗を恐れない

周りの学生達を見習い、徐々に話しかけることが怖くなくなっていきました。ある日、講義中に教授の指示が聞き取れずに困っていた時、思い切つて隣の学生に聞き、疑問を解決することができました。もし今までのように話しかけることを躊躇していたら、このように先に進むことはできなかったと思います。平日は講義が終わると課題に追われていましたが、週末は友人たちと街へ買い物に出かけたり、博物館へ行ったりとメリハリのある生活を送りました。

大学での講義や魅力的な課外プログラムを通じて、多くのドイツ人や外国人と出会うことで得られたさまざまな経験は、ドイツ語の向上だけではなく、自身の価値観を見直すとてもよい機会になりました。留学生活を振り返り、この半年間で得られた貴重な経験を今後の人生においても大いに役立てていきたいと思ひます。

最後になりましたが、今回の留学実現に向けてたいへん

なご尽力ときめ細やかなご指導を下された酒井明子先生をはじめ、多くの先生方に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。



菊地 酒井教授 友人

菊地由美子さんは、2008年8月より、横浜商科大学から初めて大学間派遣留学生として、ドイツ、バイエルン州のケンプテン専門単科大学（公立）へ派遣されました。

担当教授 酒井 記



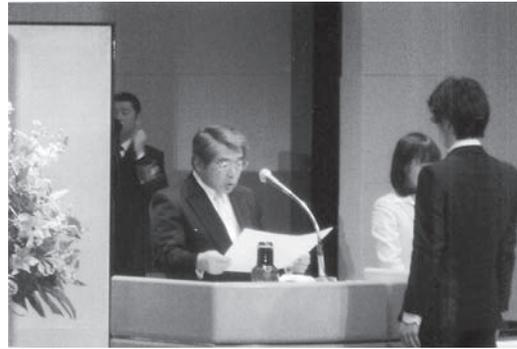
# 2009年度入学式

## 平成21年度（2009）学年暦

### 学年行事

前期	学年開始・入学式	4月1日
	オリエンテーション	4月2日～7日
	授業開始	4月8日
	開学記念日(休講)	4月18日
	祝日講義日	7月20日(祝日)
	補講日	7月23・24日
	定期試験期間	7月30日～8月8日
	夏期休暇	8月9日～9月27日
後期	追試験	8月13・14日
	9月卒業式	9月26日
	授業開始	9月28日
	祝日講義日	10月12日(祝日)
	飯山祭期間	10月28日～11月3日
	祝日講義日	11月23日(祝日)
	冬期休暇	12月23日～1月5日
	定期試験期間	2月2日～2月12日
	追試験	2月18・19日
	卒業式	3月26日
学年終了	3月31日	

学年暦は変更されることがありますので  
掲示で確認するようにしてください。



### 平成21年度 留学生課外活動 についての報告と御礼

貴会におかれましてはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。日ごろ、わたくしどもの活動に深いご理解をいただき、さらには貴重な援助を賜り誠にありがとうございます。

さて、過日ご協力を賜りました標記課外活動について、無事すべての行程を実施し、予定通り終了することができました。

詳細については別添の行程となりませんが、今回の課外活動に参加した学生は29名、教職員は5名、全部で34名となりました。そして、留学生の他に、日本人学生も参加しました。今年「いい思い出」をテーマにし、長野県と山梨県へ行ってきました。一日目は諏訪湖畔にある、50mもの高さまで吹き上がる日本一の間欠泉を見学しました。二日目は日本の文化と歴史に触れることを目的に、古事記にも登場する日本最古の神社のひとつである諏訪大社を拝観

し、歴史を現場で学びました。お昼は山梨県の名物ほうとう作りを体験し、自分で作ったほうとうをそのまま食べることになりました。午後は、予定どおり、皆様に素晴らしい思い出を残して頂くために、日本一の渓谷美を誇る昇仙峡を散歩しながら、素晴らしい自然の景色を味わい、いい体験ができました。また、移動中における、クイズゲームや伝言ゲーム、留学生主催のビンゴ大会等、多様な活動を通して、留学生、日本人学生、先生方との交流並びに親睦を深めることができました。

今回の課外活動は、プランの制作から実施まで、留学生会が積極的に計画し、教職員の方々にも協力いただき、全ての行程を無事に終えることができ、感慨深く感じしております。また、ご協力いただいた皆様のご厚意を無にしないためにも秋の留学生フォーラムにて今回の成果を発表するために更に学習、研究を進めていきたいと思っております。

横浜商科大学留学生会

会長 陳 吉龍

**第1回ホームカミングデー**  
**10月31日(土)開催**  
**つるみキャンパスに**  
**恩師や友人と集おう!!**

横浜商科大学は、創立以来18000名を超える卒業生を社会に送り出しています。多くの卒業生が、社会で大活躍しているのに、その情報が母校に、あまり伝わって来ていないのが現状です。

そこで、卒業生との連携を一層強固なものにする為に、卒業生の皆様を、母校に招く「ホームカミングデー」を企画し本年、第1回目を開催することにいたしました。

その趣旨は、前述に加えて、卒業生(同窓会会員)が世代を超えて、母校に集い、親睦を深めることで、会員相互の発展と連携強化につなげ、又、恩師教職員も参加し、相互理解を深め、更には、横浜商科大学を卒業したという誇りを喚起することです。

母校のさらなる活性化と発展に、つながるものと確信して居ります。

予約不要・無料  
 友人・知人・家族みんなで参加して下さい。

日時 平成21年10月31日(土)  
**飯山祭期間中**

場所 つるみキャンパス

内容 午前11時～午後1時  
 懇談・交流会

午後1時～2時30分 横浜開港150周年記念

大学リレーシンポジウム  
 午後3時～5時 歓迎式典・懇親会

詳細は、ホームカミングデー実行委員会まで

☎045-571-3901

**第41回 飯山祭**

平成21年10月31日(土)

11月1日(日)

つるみキャンパスにて

1. アイドルによるトークショーとお笑い芸人によるお笑いライブ

2. 模擬店・フリーマーケット

3. 縁日  
 4. スタンプラリー

来て 見て 楽しんで!!

**第34回同窓会総会のご案内**

新会員(H21年3月・9月卒業の方)のみなさ〜ん  
 集合して下さい!!

日時 平成21年11月21日(土)

PM 6時より総会

7時より懇親会

場所 新横浜国際ホテル  
 会費 5000円

新会員の皆様のみ無料です。  
 宿泊希望の方、ホテル総副支配人、比企氏(同窓会幹事14期生)・同窓会事務局まで

先生方も多数ご出席予定です。ゼミのOB会等、皆で集合してみませんか。尚、懇親会では、担当スタッフが、素晴らしいアトラクションを企画中です。

乞うご期待!!

オープンキャンパスで  
**商大体験を!**

今年も、オープンキャンパスが、つるみキャンパスで開催されます。当日は、大学案内や、入試説明が行われる他、模擬講義を受講したり、担当者個別質問するコーナー等を設けました。

又、食堂メニュー試食等、楽しいイベントも用意されています。

一足お先に大学生活を体験してみして下さい。

9月20日(日)

10月31日(土)

11月1日(日)

12月23日(祝)  
 詳しくは入試事務室までお問い合わせ下さい。

☎045-571-3901

**同窓会事務局より**

〈住所変更の方・ご意見・ご提案などなど  
 何でもご連絡下さい〉

横浜商科大学同窓会事務局

〒230-8577 横浜市鶴見区東寺尾4-11-1

Tel・Fax 045-583-9031 直通(月・火・木・金)

同窓会HPアドレス <http://www.shodai-ob.com/>

携帯サイト：<http://hp.did.ne.jp/shodai-dousou/>

E-Mail：[dousou@shodai.ac.jp](mailto:dousou@shodai.ac.jp)

**〈編集後記〉**

会報35号(夏号)の発行にあたり、皆さまのご協力に深く感謝申し上げます。

何かと不安な社会情勢の昨今、人の温かさや、人生の機微に想いを寄せる大切さに気付く、心のゆとりを持ち続けたいものです。

先人の言葉に、お金が無くて、誰でも七つの施しが出来る。それは、

一、やさしいまなざし  
 二、慈愛にあふれた笑顔で人に接する。

三、あたたかい言葉をかける。  
 四、自分の身体を使って人に奉仕する。

五、思いやりの心を持って人に接する。  
 六、感謝(ありがとう)の心を持って人に接する。

七、お年寄りに進んで接する。というものです。

人が人である限り、生命と人格を尊重しあうのが文明国家である。真の文明国家であるために、今、私達は何をしなくてはならないのでしょうか。――紀一

